

人が生きる社会の実現

一人ひとりが「生きる」ことこそが、
持続可能な社会の実現につながる。

その信念と使命感のもとに、オカムラは、すべての人々が
笑顔で生き活きと働き暮らせる社会を実現していきます。

オカムラのミッション

豊かな発想と確かな品質で、
人が生きる環境づくりを通して、
社会に貢献する。





受け継がれる オカムラスピリッツ

“良いものをつくりたい”という夢と情熱を実現する“チームワーク”
業界に先駆けた“挑戦”をすることで常にNo.1を目指す姿勢

人を想うことで 培われた3つの強み

「人を想うこと」を源泉にした
この3つの強みを磨くことで従業員が生き、
顧客と社会が生きる好循環を生み出します。

顧客課題
解決力

オカムラの強み

顧客との
信頼関係

確かな
ものづくり



新たな需要の創出

常にお客様に対して、また社会に対して
「面白い答えが出せる会社」でありたい。
製品・サービスのあるべき姿を形にするデザイン力と提案力、
品質を担保する高度な生産技術と安定した供給力、
これらの強みにさらなる磨きをかけ、
新たな価値の提供に挑戦し続けます。



「統合報告書2023」の発行にあたって

オカムラグループではこれまでサステナビリティレポートを発行し、財務情報・非財務情報の掲載を行ってまいりましたが、グループの経営方針・経営戦略と併せて統合的に開示していく必要性を感じ、今期からスタートした中期経営計画2025の発表を機に、統合報告書を発行することになりました。

本統合報告書では、株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆様へ当社グループへのご理解を深めていただくことを念頭に編集を行いました。オカムラグループのパーパス（存在意義）を軸に、これまでの歩みや培ってきた強みが中長期に向けた事業戦略・成長戦略にどのように結び付いているのか、わかりやすくお伝えできるように努めています。

発行にあたり、部門横断のプロジェクトチームを発足し定期的にミーティングを重ね、サステナビリティ委員会での中間報告や社外監査役から適宜アドバイスをいただき、議論を進めてきました。

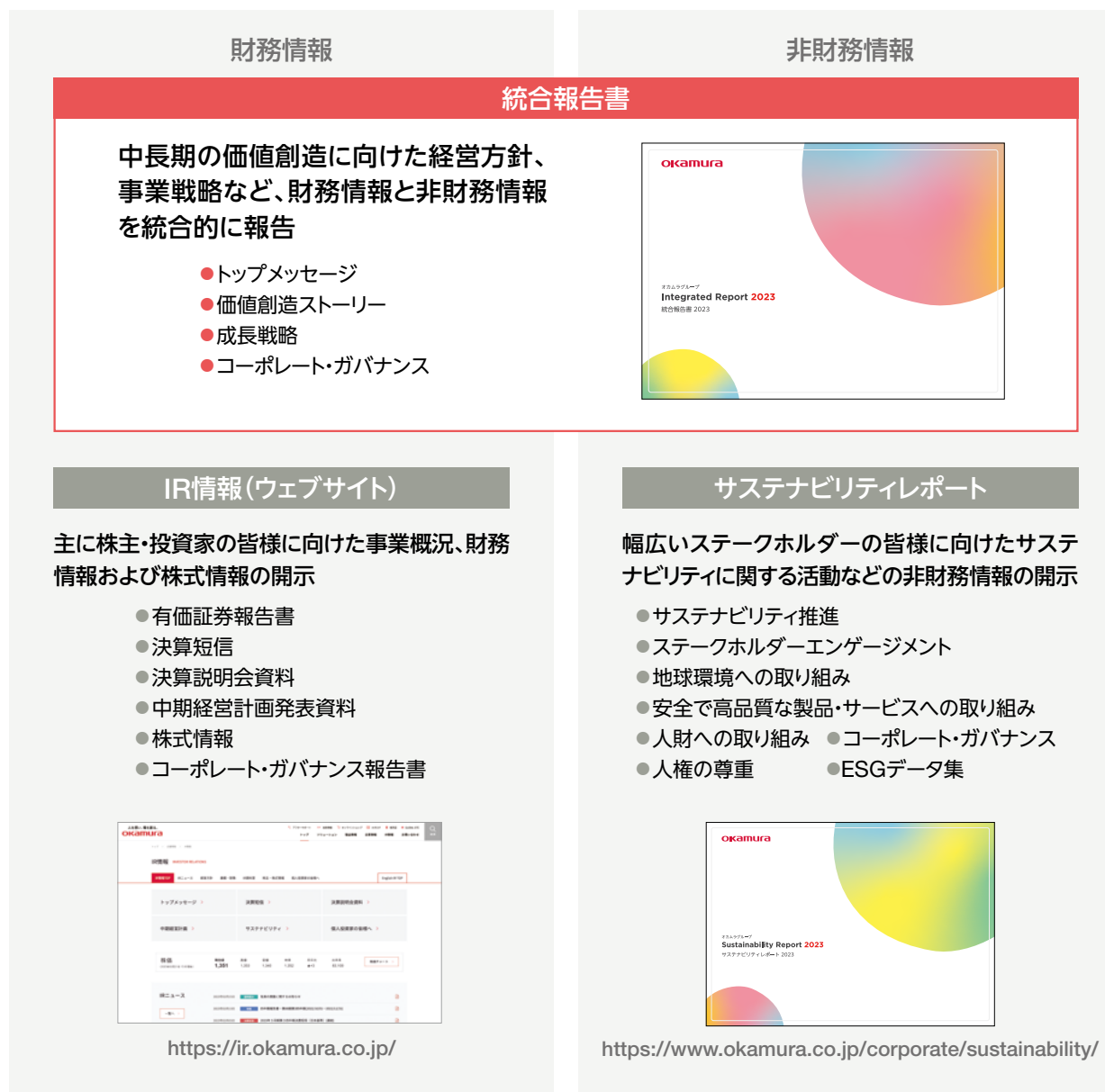
統合報告書では「中長期の価値創造に向けた事業戦略」を中心に、またサステナビリティレポートでは「サステナビリティに関する活動」や「ESGデータ」などすみ分けをし、掲載内容の連携を図っていますので併せてご活用いただくことで理解を深めていただけたと考えています。

本統合報告書を通じて、ステークホルダーの皆様との対話がさらに深まるきっかけとなれば幸いです。



コーポレートコミュニケーション部長
鈴木 絵美

情報開示体系



Contents

Introduction “人を想い、場を創る。”

成長に向けた意志を語る	価値創造の仕組みを紐解く	中長期の成長に向けた戦略とその成果	企業価値向上を支えるコーポレート・ガバナンス	
01	02	03	04	05
トップメッセージ	価値創造ストーリー	成長戦略	経営基盤	財務・会社データ
<ul style="list-style-type: none"> 8 トップメッセージ 15 オカムラグループの事業 16 At a Glance 	<ul style="list-style-type: none"> 18 パーパス(存在意義) 19 オカムラグループの強み 20 オカムラグループのあゆみ 22 培ってきた3つの強み 24 経営方針 25 解決すべき社会課題と提供価値 26 オカムラグループのマテリアリティ(経営の重要課題) 27 価値創造ストーリー全体像 28 経営理念「オカムラウェイ」 	<ul style="list-style-type: none"> 30 中期経営計画の変遷 31 新中期経営計画の概要 33 事業別戦略 <ul style="list-style-type: none"> 33 オフィス環境事業 36 商環境事業 39 物流システム事業 42 パワートレーン事業 44 海外事業 45 生産供給体制 46 人事担当役員メッセージ 48 DX担当役員メッセージ 50 環境担当役員メッセージ <ul style="list-style-type: none"> 52 TCFD提言に基づく情報開示 55 財務担当役員メッセージ 57 マテリアリティのKPIと進捗 	<ul style="list-style-type: none"> 60 役員一覧 62 コーポレート・ガバナンス 68 社外取締役対談 70 社外監査役メッセージ 71 リスクマネジメント 75 ステークホルダーエンゲージメント 	<ul style="list-style-type: none"> 77 5年間の連結財務サマリー 78 会社情報・株式情報

参照ガイドライン

- 国際統合報告評議会 (IIRC) 「国際統合報告フレームワーク」
- 経済産業省「価値協創ガイダンス」

報告対象期間

- 2022年度 (2022年4月1日~2023年3月31日)
- *一部の活動については、2023年4月以降の内容を含む

報告対象範囲

- オカムラグループ (株式会社オカムラおよび関係会社)
- 関係会社についてはこちらをご覧ください
- ▶ <https://www.okamura.co.jp/company/outline/group.html>

レポート内表記

- オカムラグループ：株式会社オカムラおよび関係会社
- オカムラ：株式会社オカムラ単体またはブランドとしてのオカムラ

将来の見通しに関する注意事項

本レポートに記載されているオカムラグループの将来に関する予測・予想・計画は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、これらには不確実性が含まれています。実際の業績は、経済状況や為替相場などさまざまな要因により、これらの業績予想と異なる可能性があることをご承知おきください。